

全国で果樹カメムシ多発！！要注意

猛暑が続いた夏の真ん中を抜けて、少しずつ朝と夜が涼しくなってきました。最近はエアコンを消して寝てみよう
と挑戦しておりますが、なぜか朝起きたらエアコンがついております。まだまだ暑いみたいですね。日中はまだ 30
度を超える日々が続いておりますので体調管理は油断せずに行いましょう。さて、今回は果樹全般で早い時期から発
生が見られている果樹カメムシについてです。今年度は全国的に注意報が出ており注目されていますので特徴や対象
薬剤などをまとめてみました。

1. 果樹カメムシの発生状況

果樹カメムシ類は果実を吸汁する害虫として問題になる害虫です。気温が高くなると果樹カメムシ類の活動
は活発化し、柑橘類では 5 月頃から被害が出始まるため注意が必要です。吸汁された果実は傷ができたり、落
果したりするため防除は毎年必須で行いましょう。主にもも、うめ、なし、かき、みかん、ぶどう等を好んで
加害します。この果樹カメムシは年によって発生量が異なり、前年の越冬数などに起因するため注意しておく
必要があります。

調査地点	チャバネ・ツヤアオ合計（枝当たり頭数）					口針鞘数 (本/果)
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
諫早市多良見町東園	0.5	0	0.1	0	0.6	12.0
〃 佐瀬	1.2	0	0.3	0.1	1.6	14.0
長与町岡	0.2	0	0.4	0	0.6	8.0
時津町西時津	0.2	0	0	0	0.2	4.2
西海市西彼町小迎	0.1	0	0	0	0.1	12.1
西海市西海町木場	1.6	0	0	0	1.6	18.4
諫早市長田	1.4	0	0	0	1.4	15.2
大村市今村	1.1	0	0	0	1.1	11.2
東彼杵町赤木	0.1	0	0	0	0.1	15.3
雲仙市瑞穂町伊福	0.4	0	0	0	0.4	18.9
雲仙市国見町百花台	0.1	0	0.2	0	0.3	17.0
南島原市有家町新切	1.2	0	0	0	1.2	6.4
南島原市北有馬町田平名	1.4	0.1	0.1	0	1.7	13.6
佐世保市宮	0.1	0	0	0	0.1	15.7
佐世保市針尾	-	-	-	-	-	-
R6 平均	0.7	0.01	0.08	0.01	0.8	13.0
平 年 値	1.6	0.2	0.2	0.1	2.2	11.7
R6 構成比率(%)	87.1	1.3	10.2	0.9		

長崎県病害虫防除所によると、8 月
下旬に調査したカメムシ類のヒノキ樹
への口針鞘数は、(13.0 本/果、平年
11.7 本/果)と平年並に推移しており
ます。フェロモントラップにおける誘
殺数を見ても、平年並で推移してい
るがやや増加傾向にあります。8 月下
旬に防除所が行った圃場巡回調査(36
筆)については、かんきつでの圃場発
生率が 5.6%と平年よりも発生が見
られました。(平年 0.3%)すでにヒノ
キを離脱し果樹園に飛来していると思
えられますので防除を行いましょう。

○ヒノキ樹における果樹カメムシ類の寄生および口針鞘数の状況
(長崎県病害虫発生予察室より)

2. 果樹カメムシについて

(1) カメムシの特徴

チャバネアオカメムシ

体長：10～12mm

活動：5～10月

越冬：常緑広葉樹林
の落葉下

特徴：緑色の体で、翅
は茶褐色



日本全土に年 1～3 回発生しているカメムシ。冬を越した成虫は 4 月頃に気温の上昇にあわせて活動を再開する。主な発生源はヒノキ・スギ林に移り、豊富な球果を餌に盛んに繁殖を行う。これらの植物での球果の結実量の多少が、カメムシの発生量および果樹被害の多少に大きく関与。球果の結実が少ない年に果樹の被害が多くなる傾向がある。梅雨が明けるところには新成虫（当年世代）の羽化が見られるようになり、餌条件によっては 9 月まで繁殖が続く。その後、冬に向け栄養を蓄積し、晩秋には越冬場所となる。

ツヤアオカメムシ

体長：14～17mm

活動：9～11月

越冬：スギ、ヒノキの
樹冠内

特徴：光沢のある
緑色の体



関東以南に年 1～2 回発生しているカメムシ。チャバネアオカメムシ同様、主な発生源はヒノキ・スギ林に移り豊富な球果を餌に盛んに繁殖を行う。ただチャバネアオカメムシよりも依存度が高い。発生活長も同種に類似し、夏を境に越冬世代から当年世代へと世代交代が進む。越冬は常緑樹上などで行い、定期的な吸水を必要とするなど、3 種の中では最も寒さに弱い。早生温州では 9 月上旬、普通温州では 9 月下旬から飛来し、果実を吸汁加害する。早朝に加害された果実は口部分が褐色に変化し、着色が早まる。

○果樹カメムシの特徴（BASF サイト）、果樹カメムシの発生対策（日本植物防疫協会サイト）

(2) カメムシの被害

果樹カメムシ類はみかん、ブドウ、桃、梅などの果樹・果実を好み、いずれの種も針状の口を果実に刺し込んで吸汁加害します。加害を受けた果実は吸汁された部分がスポンジ化してくぼみを生じ、商品価値を大きく損ないます。また、気温が高い時期に加害されると、着色ムラがでて、やがて落果していきます。

収穫期近くに加害された場合は、落果は少ないものの果皮に褐色斑や斑点状のくぼみができ、品質低下に大きく起因します。



温州みかんを吸汁加害するカメムシ



吸汁加害で落果した温州みかん



吸汁加害で変形したナシ

果樹カメムシ類は、飛来次期が予測しにくいいため、園地をよく観察することと県の病虫害予察情報をチェックしながら防除していきましょう。特に前年8月以降に多発した翌年は、越冬成虫が多い傾向があるので、注意してください。飛来した果樹カメムシ類の雄が園地に定着すると集合フェロモンを放出して同種の仲間を呼び寄せてしまうので、予察情報でリスクが高いと分かっているときは、特に念入りに目視チェックをし、早め早めに防除が重要です。

3. 防除薬剤について

カメムシ類の飛来を確認できた時点で迅速に防除することが重要です。果樹カメムシ類は夕方活動が活発になるため、夕方もしくは朝方の薬剤散布を行いましょう。

薬剤は「合成ピレスロイド系」、「ネオニコチノイド系」が効果的です。その他にも「有機リン系」の農薬も効果がありますが、多発時には残効性が比較的高い「合成ピレスロイド系」、「ネオニコチノイド系」を中心に散布することをお勧めいたします。下記の農薬は例として記載しておりますので各地区の防除暦をご覧ください。カメムシ類の飛来が長期間続く場合や農薬の散布後に降雨があった場合には再度散布する必要があります。

●テルスター水和剤、FL（合成ピレスロイド系）

特徴



カメムシ類だけでなくチョウ目害虫、アブラムシ類、ヨコバイ類、アザミウマ類など多くの害虫にすぐれた効果があります。

かんきつ場面では収穫前日まで使用でき、総使用回数も3回なので使いやすい薬剤となっております。フロアブルだけでなく水和剤もあります。

※現在販売停止（9月19日時点）

●スタークル顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）

特徴



野菜のコナジラミ類、果樹のコナカイガラムシ、カメムシ類など広い殺虫スペクトラムで高い効果を示します。

散布、灌注、セルトレイ処理など、多くの作物の様々な使用方法に対応できる使い勝手の良い殺虫剤です。植物体内に浸透移行して速やかに効果を発揮します。

系統	特徴
有機リン系	殺虫効果は高いが、残効性が短い
合成ピレスロイド系	殺虫～吸汁阻害効果、残効性ともに優れるが、天敵に影響があるためハダニ類などの多発に注意
ネオニコチノイド系	吸汁阻害効果、残効性は優れるが、殺虫効果、耐雨性は薬剤により異なる。一部の薬剤は天敵に影響があるため、ハダニ類などの多発に注意

展着剤の使い分け★

プラスα
マンガシリーズ
第138弾!!



引用：防除情報第 12 号（長崎県病害虫防除所）、果樹カメムシの特徴（BASF サイト）、果樹カメムシの発生対策（日本植物防疫協会サイト）、果樹カメムシ防除のポイント（農業協同組合新聞）

* 10 月号に記載されている内容は J A 全農ながさきのホームページに掲載されています。

J A 全農ながさきホームページ URL：<http://www.ns.zennoh.or.jp>